

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第26号(20110701)

発行 竹田幸男



## 編集講習会開催

6月20日(月) 新寝屋川市映像協会の行事として市民会館第9会議室で編集講習会が開催され、映像寝屋川、寝屋川映像同好会の会員(一部会員外も含む)19人が参加し、盛大に開催されました。

ノートパソコン持参の方も数人あり、講師竹田会長がプロジェクタの映像を参照しながら説明。カメラからの取り込みからBGMの挿入までを実習を交え、10時から16時

まで皆さん熱心に聴講されていました。

## 例会の窓

### 平成23年7月例会

日時 平成23年7月1日(金) 13:30～16:30  
場所 寝屋川市民活動センター 4階 こども部屋  
出席者 新井 天野 石田 小笠原 佐伯 竹下 竹田  
谷 (8名) 欠席(4名)(50音別 敬称略)

### 例会次第

#### 1. 報告・連絡・協議事項

##### (1) 映像協会撮影会報告

- ・実施日 6月8日(水)早朝は雨で心配したが、次第に回復するとの天気予報で実施。現地では好天に恵まれた。
- ・総勢15名、当会出席者は当初予定通り6名(天野 新井 小笠原 佐伯 竹田 谷)。
- ・観光客が少なく撮影には好都合であった。
- ・撮影ポイントを絞るとか、シナリオを作っておくなどの工夫で、より良い作品作りを、との反省が聞かれた。
- ・次回の撮影会は、落ち着いて撮影できる所を検討しよう。  
例えば、黄檗山・常寂光寺(新緑・紅葉の時期など)

##### (2) 編集講習会(竹田さん)

- ・日時 6月20日(月) 10時～16時
- ・場所 寝屋川市総合センター 4階第9会議室
- ・ハイビジョンの編集は、これまで難しいとされてきた。簡易ソフト「Windows Live ムービーメーカー」を使うことで、手軽に取り組めるようになった。
- ・今回の講習会は、入門レベルであった。興味のある人は、次のステップに進まれることを期待している。
- ・PCを持ち込んでいる人、PCのない人が混在しており、進行にやや難点があった。
- ・雑談(というより受講者相互の話し合い)が多かった。説明と質問を分けて進めた方が良かったか?(参加者:新井 石田 小笠原 梶本 佐伯 竹下 竹田 谷)

##### (3) 忘年会プロジェクトに関して(石田さん)

- ・6月の例会で報告した下記の通り予定。企画はこれから詰める。
- ・宴会部長は石田さん担当。
- ・日時 12月11日(第二日曜日) 第一日曜日は場所が取れないため。

- ・場所 寝屋川市市民活動センター 4F第12会議室(和室)
- ・時間 12時開宴(10時30分から準備)16時終了。
- ・内容 映像寝屋川のこれまでのやり方を踏襲する。ゲーム等はこれからの検討課題。景品は全員にわたるよう配慮する。
- ・会費 4,000円。景品付とする。

(4) にぎわいフェスタ(第61回寝屋川市民文化祭)に関して。

- ・アルカスホールを中心として、11月3日(木)～5日(土)
- ・映像作品発表会作品の締め切りは、9月6日(火)

(5) 寝屋川まつり撮影協力に関して。

- ・撮影手当を支払う方式を今年は考えている。
- ・個別にお願いするので協力をよろしく。

(6) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件。

- ・次回担当 石田さん。

## 2. 作品発表

(1) 「かたなの博物館を訪ねて」新井さん 8分46秒

- ・撮影会当日と2度目の訪問時の研ぎの服装・かたなが違う、研ぎながらの説明は初回のみなど、作品にまとめるのに際して課題があった。
- ・今回はBGMを入れた。引き続きナレーション、匠の話などの編集に取り組む。
- ・展示品の説明を入れたい。研ぎをしながらの話は聞き取りにくい。文字での補足やアフレコも検討したい。
- ・動きが平面的、逆光(窓を閉める・ライトアップ)の克服。
- ・鍛錬から研ぎの工程を映像化するのは、これからの課題である。

(2) 「屏風岩公苑」谷さん 7分13秒

- ・先月発表の同作品のBGMを変更したもの。

(3) 「ウグイス巣立ちの頃」谷さん 4分4秒

- ・竹林の傍で鳴いていたのが可愛く、思わず撮ったもの。
- ・何鳥か判らなかったが、ご主人に教えて頂いたとのこと。
- ・常寂光寺は静寂で新緑が映えるなど素晴らしかった。

(4) 「嵐山・嵯峨野ぶらり」天野さん 10分

- ・2分程度カットして、8分ぐらいの作品に仕上げたい。
- ・BGMが良く合っている。

(5) 「激打！」竹田さん 9分59秒

・前月、途中で切れたので再上映。

(6)「大阪へようこそ 熱烈歓迎」小笠原さん 7分13秒

・本人達の記念として、中国からの研修生たちの来阪旅行を撮ったもの

### 3. 会員の当面する問題点の質疑応答

(Q) BGMに使用する音楽ファイル(CDからの取り込み)が場所不明になって困る。

(A) 編集の時、CDから直接データを取り、その後CDを取り出してしまうと、次の時にはCDが無いので行方不明になる。パソコン内にCDからデータをコピーして残しておくこと。

(Q) DVからの取り込み・編集にはIEEE1394端子が必要だが、最近のパソコンには付いていない

(A) デスクトップであれば1394ボードを装着する。ノートではPCMCIAソケットに別売のカードを装着すれば良い。

・DVの映像が一番素直で汚れがない。家庭用のAVCHDは静止画は精細であるが動いている映像、早いパンなどでは画質が落ちる。悩ましいところである。

### 4. 次回例会

・8月5日(金) 13:30～ 於: 寝屋川市市民活動センター 4階 こども部屋。

・カメラ担当: 新井さん。



## 何でも修理時代

石田 昇

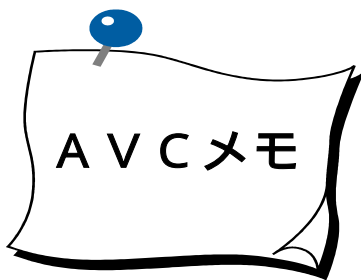
昭和35年春、私は地方の小さなサービスステーションに居た。テレビサービス1名、冷蔵庫1名、洗濯機1名、無線関係・私と事務員1名のステーションだった。

昼間はスクーターで出張サービス、担当はステレオ、電蓄、放送設備等が担当だった。カバンの中は真空管、抵抗、コンデンサー、レコード針にベルト、プーリー等が入っていた。各自専門分野化されていたが有事により専門外の応援もやった。年末にはテレビ修理のための真空管25E5, 8A8, 9A8等を持って----夏場は冷蔵庫----台風の後には洗濯機----と簡単なものは直すことができた。その頃から小物家電の修理品が増えだした。昼は外、夜は預かり品のラジオ、テレコ、アイロン、炊飯器、トースタ、時計等色々な物を直すのが日常業務であった。暫くして修理専門の共栄会社が誕生、その指導育成をする事となる。昭和36年の9月頃だった。

各社サービス関係に力を入れる時代に入ってきた。各代理店・販売会社のサービス部を充実し、多くのサービスマンが増員された。

そして遂に昭和37年9月、サービス会社が誕生、約一年出向後営業所へ戻り、私の何でも修理時代は幕となりました。原理が分かれば直せるアナログ時代でこそできた技であったと思う。

「あの頃はエー（良い）時代やったなー」



## お引っ越しは お早めに

竹田 幸男

もう巷では、DVテープを使って撮影できるカメラを殆ど売っていません。DVが良いから、といっても、今持っているカメラが使えなくなったらどうしますか。「修理する！」いいでしょう。修理に出したときに「もう部品が無いので直せません」と言う返事が来る日は、まもなく、間違いなく、やってきます。

このように世間の波に淘汰される記録媒体の変遷は猛烈な勢いでやってきます。DVが発表され、「何度コピーしても画質の変わらない、夢のビデオ」と期待されたのは、記憶によれば1995年、まだたった16年前のことです。それ以前、8ミリビデオが発売されたのが1985年、これはまだアナログですが、我が家では1台しかなかったカメラが動かず、もう再生不可能な状態です。ハイ8は旅行用という位置づけで、作品はもっぱらVHS-Cに頼っていたのでまだ救われていますが、そのVHSも今あるデッキがつぶれたらお終い、という寒々とした状態です。8ミリカメラの惨状を尻目に、しぶとく生き残っている、このVHSデッキも、もう部品は無いに違いありません。

映画では35ミリフィルムがまだ頑張っているのに後から出た8ミリフィルムは絶滅状態、9.5ミリは歴史の彼方。スチルカメラではラピッドシステム、ディスクフィルム、110フィルム、ベスト判など言えば、「そういうものもあったかな」という状態、レコードもSPは死滅、LP・EPも絶滅寸前です。

\*\*\*\*\*

私たちに縁の深い8ミリビデオ、VHS等オールド記録媒体からの引っ越しが急務です。アナログの8ミリ・ハイエイトはテープ幅も狭くトラック幅も狭いのでエラーも起こりやすく、デジタルのように補正が利きませんのでエラーはまともに画質に利いてきます。VHSはテープ幅も広く、トラック幅も広いので、多少長持ちはしますが、再生機の寿命の方が危ぶまれます。

何に残すか、今の段階ではDVDでしょう。ただしDVDが万能ではありません。8ミリビデオやVHSの欠点（色むら・ノイズ・輪郭からの色のはみ出し等）にDVDの欠点（動く物に発生するノイズ等）が加わり、さらにコピーによって画質の低下は免れません。何も見られなくなるよりは、まし、と考えなければ仕方無いでしょう。でもDVDもいつまで持つか。先回りしてBDと考える人もいるでしょう。「DVDは百年持つか？」というタイトルのパソコン雑誌の特集記事がありましたが、これは記録されたディスクがいつまで再生可能か、という技術次元の問題で、再生機が100年も残っているかどうかは別の問題です。

